

第57回市民ふれあいトーク 【一緒に考える このまちの地域力】

日時 平成26年11月30日 14:00~15:30

場所 連島南公民館

要約版

市長

皆さんこんにちは。今日はお忙しい日曜日の午後にお時間を繰り合わせていただきまして、誠にありがとうございます。

市民ふれあいトークも今日で57回目です。私が市長に就任させていただきましてから、大体月に一回位のペースでしており、前回、連南公民館に参りましたのが、平成22年の年末ぐらいだったと思います。久しぶりでございます。各公民館に伺いますので、一回りするのに結構時間もかかりまして、大変恐縮でございます。

「一緒に考える このまちの地域力」ということで、これから1時間ちょっとお付き合いをいただきたいと思っておりますし、意見交換もできればと思っております。この市民ふれあいトークでございますが、私が最近の倉敷市の状況をお話して、その地域の状況、また市全体として皆様の方から「もっとこういうふうに頑張った方がいいんじゃないか」というようなお話を互いにできればいいなと思っております。本当に皆様にはいつも大変お世話になっており、感謝を申し上げます。

今朝、福田公園で農業まつりがございました。何と言っても一番の出し物は、連島のレンコンとゴボウでございます。この時期、地域の皆さんが手塩に掛けて作ってくださったレンコンとゴボウが飛ぶように売れておりました。本当に今日の農業祭りは、たぶん何千人の方が来てくださったんだと思いますけれど、その中で一番人気がありましたのは、その二つ。そして倉敷かさや農協さんが、地域の皆さんで作ってくださったものを販売されているところが、一番人気があるんじゃないかと思っております。

一番最近の話題で言えばやはり選挙でございます。急に選挙になり市の方も2日から4日まで、市議会もありますので、市役所の方は普通にやっておりますけれど、世間の方は選挙がありまして倉敷市の方も今回急きょ福田公園で会場がないものですからコンベックス岡山の方を借りまして、開票ということになり、初めてですが隣町での開票することになりまして、ちょっと開票が遅くなる予定になっております。

さて、最近この連島地区、また水島、倉敷市が全国に大きくテレビに出たことと言いますと、高橋大輔選手が引退をされるということで急きょ発表がありまして、ヘルスピアで発表に続く会見と言いますか、地元の皆さんに対する報告がございました。銅メダル、世界選手権で優勝され、この前発表しましたけれど倉敷市からスポーツ特別功労賞を表彰させていただくことになりました。12月6日土曜日にヘルスピアで表彰をしました。それからヘルスピアのリンクが1年中スケートで開けるように加計学園さんがしてくださいまして、その行事にも参加される予定で、マスコミの方も大変たくさん来られるんじゃないかと思っております。引退会見の時もほとんどのテレビ局が生中継ですごかったですけれど、きっと多く報道されるんじゃないかと思っております。もう一つは、星野監督が引退をされまして、シニアマネージャーになられて楽天一応残られるようになったんですが、10月に発表されましてこちら倉敷市からスポーツ特別功労賞をお渡ししまして、倉敷市のスポーツ大使をしていただけることになりました。大変快く星野監督が引き受けて下さいまして、市役所の方にこの前来られまして、しっかり頑張りますということをおっしゃ

りました。高橋選手にもお願いをしようと思ってたんですけど、今後プロの方に進まれるとか色々なことがありますので、今現在、あまり無理を言ってもいけませんので、落ち着かれましてからお願いしようと思っております、地元のことにも気を使ったださっているというのが現状でございます。

それから、最近私が全国の方でテレビに出ました。地方創生ということが言われていると思います。安倍総理が、まち・ひと・しごと創生会議というのを作られまして、9月から官邸の会議に出席をいたしています。私も官邸はテレビで見るばかりだったんですけど、10月は3回会議に行きまして、地方の思いを言っております。12人外部有識者がおりまして、大臣もいらっしゃるんですけど、あんまり皆さん言われないので、地方の代表なので言わないといけないと思ひまして、とにかく東京ばかり発展したんじゃないかということで地方が発展するように頑張らないといけないということを言いました。また、子育てするなら倉敷でということで倉敷市では頑張っておりますけれど、その取り組みを言いました。私が市長に平成20年に就任させていただきまして、それから保育園を新しく合計で7つオープンをしまして、定員で600人くらい入っていただけになったんですけど、それによりお母さんやお父さんが働きに行きやすくなる。それから学童保育の方も以前は小学校3年生までだったんですけど、今小学校6年生まで入りたい方がいらっしゃることは拡大をしてやっておりますけれど、それでお母さんがより安心して仕事の方もしていただけるようになる。ということで実は、倉敷市内で女性の働いていらっしゃる方で、且つ給料から天引きで市民税を納めて下さっている方が、市の税金での統計で、平成20年の時は44,000人でした。今5年経ちまして48,000人に、4千何百人くらい増えております。学童保育とか、保育園の増設とか、そういう面で女性の働いている方の数が増えてきて、そしてもちろん市民税を納めて下さっているということで市の方も大変ありがたい思いをしております、今、女性の活躍ということが東京の方でも言われておりますが、そういうことを倉敷市が先んじてやっているということで、私が有識者会議のメンバーになったんじゃないかと思ひます。倉敷市の出生率も以前は1.4くらいだったんですけど、今1.55から1.6くらいということで、岡山県内でも非常に高い数値になっています。人口方も県内ではほとんどの所が減ってきていますけれど、倉敷市ではおかげさまで今人口が年間に大体1,000人くらい増えてきておりまして、平成20年の時は47万人台だったんですけど、今48万4千人近くに増えてきております。普通、大きな都市はそんなに人口が増えてないんですが、倉敷市はまだ人口が増えてきているという状況です。

そして皆さんが一番関心あるのは、防災のことだと思ひます。災害の対策、この地域の浸水対策のことだと思ひます。前回、平成22年に会をさせていただいた時に、皆さんから遊水池の所を何とかしないことには、大雨や台風が来た時に浸水の心配があると、色々ご意見を頂きました。その後、国、県と色々折衝致しまして、皆さんご存知のように地元の大橋先生をはじめ皆さんに大変ご協力をいただきまして、今、浚渫したり、橋も橋脚がだんだんできてきております。平成18年の4月に水玉ブリッジが無料化になりましてから、車の量も多くなってきているということもありましたし、何より浸水対策のために橋をとということで、早くやらなければということでやっております。一応、元の案では平成27年度中に橋が通る予定でやっておりますが、東日本大震災の関係で復興の予算がかかることもありまして、半年から1年ぐらひは遅れそうだというお話を国から伺っており

ますけれど、一応順調には進んでおります。橋を架ける時の工法も色々ありますが、我々としては、何よりも遊水池の浚渫を早くやっていけば、工事の途中に少々雨が降ってきても被害が少ないということで、とにかくこっち側から浚渫をしてくださいとお願いをしまして、国もそれでやっていただいております。平成23年の夏の時には皆様に大変ご迷惑をかけてしまったんですけど、今その橋の所と汐入川の亀西橋の辺りまで浚渫をいたしておりますので、川の方と合せて少々雨が降っても大丈夫なようになる予定でございます。大体50cm以上は雨が降っても必ず水位が下がるようになりますし、大きなポンプも付けるようにしておりますので、ずいぶん安全になると思っております。それから学校の耐震化のことは進めておりますし、しかしながら本当にもしもの時。最近地震が結構起こっています、それから火山の噴火とかも起こっております。この前の御嶽山、それから長野県の地震とか、学者の方に言わせると日本国、地球自体が21世紀になってから、地殻の変動とかの関係で活発な時期になってきているそうです。ですので、もしかしたら南海トラフの地震の方も早く来るかもしれません。その時には皆さんとにかくヘルスピーアの方に上がってください。お願いします。勿論ここでもそんなに大きなことにはならない予定ではありますが、でもそれは分かりません。とにかく大きな地震が起きたら、津波が来るまでには、大体3時間くらいありますから、それまでにヘルスピーア、芸科大、倉敷市と防災協定を結んでおります。地域の皆さんが逃げてくださいようになっていますので、是非、上の方に、でもどうしても地域で逃げ遅れたという人は小学校とかの上の階に逃げてください。そうならないことを願っていますが、もしものことも考えてお願いしたいと思っております。

倉敷市としては今、全般的に申し上げましたような子育て支援、それから倉敷の美観地区で新しく林源十郎商店、奈良萬の小路、町家の再生で電線を地中化して、非常に観光客の方が増えています、益々来てもらえるようにということと、もう一つ取り組みをしておりますのが、この高梁川の流域の市全体で活性化を図っていこうということをやっております。この連島、水島もそうですし、玉島、児島も倉敷のほとんどの所が、以前は地面ではなくて島だったわけございまして、高梁川が上流の方から土を運んで来て堆積をして地面になった、玉島も水島も連島も児島も倉敷も市役所の北の地名も船倉ですから、あそこは船がついたわけです。その高梁川流域圏皆で経済発展に向けて頑張っていこうと。高梁川流域圏、岡山県の大体西半分。新見、高梁、総社、早島と矢掛町、井原、そして笠岡、浅口、里庄、倉敷と10の市、町で協定を結ぶように色んな取り組みを一緒にしようということで頑張っております。

では、地元のこと、倉敷市全般のこと、皆さんが最近気になっていることとか、発表、意見として言っていただけることがありましたら、お願いします。

参加者 A さん

私は小学校で、よく交通のことなんかをやっています。その時に校長先生と話すことがあったんですが、校長先生が今の子どもはあまり本を読まない、小さい時に本をたくさん読んだ子は、大人になって立派な人になると、そのことは私の経験上言えると言われたんです。それがすごく印象に残っています。そこで市長に聞きたいんですが、市長は小さい時、小学校、中学校の時に読んだ本でどんな本が一番印象に残っていますか。

市長

私はフェアブル昆虫記とか、エジソンの発明とか、アンデルセンの童話とか、よく読みました。親が買っていて、読みなさいとは言わないんですが、そこら辺に置いてまして、小学校何年生という組み立ての付録が付いているものとか、伝記とかは結構読みました。織田信長とかも読みました。小さい頃は、グリム童話、アンデルセン童話、ナイチンゲール、星の王子様とか、それで歴史ものとかを読むようになってきましたけど、それが良かったかどうかわかりませんけど。

参加者 A さん

やはり、今、市長になられている。先生の言うとおりでしょう。小さい時に本をたくさん読んだ人は立派な人になる。もう一つ倉敷市は市長から見て、他の都市と比べてこれは優れているなという点はどのような所でしょうか。

市長

倉敷市が他の所と比べて優れているなと思う所はたくさんあるんですけど、まず色々ある所がすごいと思うんです。岡山だったら岡山城とかだけ、倉敷市だったらレンコン、ゴボウもあるし、それから桃もあるし、美観地区もあるし、児島のジーンズもあるし、今日ジーンズの上着を着てきましたけれど、色々ある所がすごい。私もよく困るんです。「市長さん、倉敷市の特徴を一言で教えてください」というのは非常に困ります。でも倉敷が良いのは色んな所をPR出来ることで、あれもこれもあるというのをよく言います。勿論外国の方がよく知っているのは、やはり美観地区です。日本におられるフランスの大使が倉敷に来られまして、「京都には勿論行ったけれども倉敷の美観地区に来て、これが自分が思っていた日本の風景ですと、京都は観光地になっているので。こちらは人も住んでいるし、これが自分の中の日本の風景だ」と言われました。外国の人には美観地区が倉敷のイメージだと思いますが、私が良いと思っている所は、生活感があり、それから大原美術館がある美観地区、芸術、そして農業もあるし漁業もある、色んなところがあるのが、全国の他の大きな市との一番の違いじゃないかと私は思っています。

本のことでですけど、自分が読んでいたからというわけではないですけど、図書館の本をなるべく増やすようにしております。水島もですけど、特に児島の図書館が本の数がすごく少なかったのが、新しくやり替えた時に、本数を増やしました。子供たちが本を読んだり、ゲームばかりしないで運動してもらえるように、そういうことが本当に元気な大人を作っていくことではないかと思っております。地域の方でもよろしく願います。

参加者 B さん

私は4歳から17歳まで鶴新田に住んでおりました。諸先輩を差し置いて私のような若輩者が発言していいかどうかわかりませんけど、伊東市長はこの地域にスイゲンゼニタナゴという希少な魚が生息していることはご存知でしょうか。私はその保護活動や移植活動を続けているんですが、実はこの魚は岡山県と広島県の一部にしか棲んでいないんですけど、最大の生息地がこの倉敷市。全国的に見ても倉敷市がダントツで、その中でもこの鶴新田地区が一番生息数が多い所で本当に貴重な所です。皆さんご存知のとおり鶴新田の南側には大きなコンピナートが控えております。そのすぐ北側の開けた所にそういった貴重

な生物が生きている。私は、これを地域力として、地域の活性化に繋げることが出来ないかということを考えているんです。以前、倉敷市は倉敷ブランドということで、多くのものを指定して情報発信をしたことがあると思うんです。先ほど市長もおっしゃいましたけれども、鶴新田には連島レンコン、連島ゴボウ、玉島の桃、真備のタケノコ、確かお酒もおいしいものをたくさん作られている。そういったものをピックアップして行って、スイゲンゼニタナゴの保全活動に繋げて何か、農業でいわゆる生産品とか、それに関連してできるもの、お米を使ってできるお酒であったり、そういったものを見直して、国、県、民間団体ですとか、JAさんですとか、そういうところで外郭団体を作って、例えば農業製品、生産品の単価を上げる。農家の方の収入を上げていくというようなことを考えて、その収入の一部をそういった地域の希少生物の保護活動に使うというようなことを、市として是非ご検討いただけたらと思っております。

市長

新聞で載ってましたですね、確か1週間前ぐらいに、連南小学校の子供さんたちが移植を、あれは違いましたかね。

参加者 B さん

あれは高梁川の浚渫の話と、ポンプを設置することで高梁川の干潟が一部消失する恐れがあるということで、そこにいる希少な蟹の保護と移動を。

スイゲンゼニタナゴの方は環境学習センター・ライフパークから依頼を受けてこの地区でも小学校で出前講座をさせていただいたりしております。

市長

スイゲンゼニタナゴは今倉敷市が一番。ちょっとそこに地図があるんで。確かスイゲンゼニタナゴというのは、レッドデータという希少野生動植物種で、3cmくらいで小さいんです。スイゲンゼニタナゴというのは生物の分野の人の中では非常に貴重なもので、保護していかないといけない。例えば、玉島にはダルマガエルというのがいるんですけど、それも非常に西日本では岡山のこの辺りだけしかいないとかあります。生息地が限られてきているということで保護していかないといけないということになっております。

参加者 B さん

地区で貴重な物が生きている所の生産品を見つめ直してもらって、例えばスイゲン米であるとか、スイゲン酒であるとか、スイゲンレンコンとか、そういったようなネーミングをすることによって、付加価値を付けて販売単価を少し上げていく。私が小さかった頃は、一面田んぼのすごく自然豊かな所だった、どんどん宅地化していくことは仕方がないんですけど、そういった物と農業が両立していくメリットがないのかなと。そういったことで販売単価が上がっていく、収益が上がれば、農業の後継者不足の解消も考えられるかもしれないですし、地域の方が自分の地域を見つめて、そういった物が生きているということを理解していただき、例えば100円高くても買おうかということで、農家の方が収益を上げて、そのコストの一部を例えば1kg10円でもいいですから、外郭団体にお金が入るようにして、そのお金をその地域だけに限らず河川清掃であったりとか、町内の方が年2

回出てこられて水路の清掃の時のお茶代であるとか、お金が集まるのであればシルバーにお願いしてというところで、市の財政負担も少しは減るんじゃないかということも考えられるかなと。

市長

農業と結び付けるのは、にわかには思いつかないんですけど、ゴボウには今のところ「モグ丸くん」という名前がついていると思います。

参加者 B さん

岡山市野殿にダルマガエルの生息地があるんですけど、民間の商業施設が建つということで当然田んぼがつぶれると。その時にダルマガエルの移動先として、地域の田んぼをお貸りしてやっているんですけど、それは市がやっているところじゃなくて民間の企業が、国とか県の助成を受けてダルマガエル米というのを作っているんです。そこは J A さんとかも絡んでないので、個人の売買で販売ルートがないので、なかなか収益が上がってはいないんですけど、行政とタイアップして、別の外郭団体を作って情報発信力とか宣伝力も上がるんじゃないかと思うんで、時間がかかると思うんですが考えていただけたら。

市長

有難うございます。研究させてください。希少な場所だということはよくわかります。

参加者 C さん

まず、前回お越しいただきました時に、提言させていただきました浅桐産婦人科から、ザ・ビッグまでの川の浚渫をお願いしましたところ、さっそく竣工していただきありがとうございました。おかげで子供たちも安心して通れるようになりました。

今日は提言があるんですが、来るべき南海大地震には鶴新田は大型車両が通れる防災道はありませんよね。これは 40 年代から計画されている西鶴橋からブリッジラインまでの道路ができるということは 40 年代から決まっているんですが、当然 20 年以内に南海大地震が来るであろうと言われておりますけれども、大型車両が南北に通れる道路は現在ないんです。これの現在の計画がどうなっているのかお伺いしたいんです。(地図で場所の説明) 災害が起きた場合に、消防車も南北には抜ける道がないんです。それまで官地として空けていたところに、今どんどん、宅地造成でハウスができています。

支所長

私もちょっとはつきり覚えておりませんが、あそこは都市計画道路と言って昭和 46 年に都市計画決定した路線がありまして、大崎西岡崎線、西之浦東岡崎線というのが 2 本あって、市の街路課、都市計画課の方で都市計画道路の整備を進めている所なんですけど、残念ながら 5 か年計画で順次やっている中で、その中には入っておりません。

都市計画道路の線が入っていても、通常は皆さんの住宅 2 階建てというのはあらかじめ申請をしていただければ、そういうものはできるんです。鉄筋コンクリートのゴツイものはできませんが、通常の皆さん方が住まわれるような住宅であれば申請をしていただいたら、当面は計画がないんですから、建築するということはできます。

参加者Cさん

家を建てるために造成するということは建築許可が下りているんでしょう。建築許可が下りている所にどんどん家が建っていつている。それが今の現状なんです。

市長

計画があってもすぐに道路ができるわけではないので、その間、頑丈な建物じゃなくて一般の民家の建物であれば許可を得て建築していただき、ただ道路が実際に着工することになったら、協力をしますよという仕組みは勿論できています。確かに元々計画道路ができるということで考えられている方と、実際に家を建てられる方もいらっしゃる、それも合法的に建っていることになっているんです。

参加者Cさん

その場合、田んぼの値段と宅地を撤去する立ち退き料ということになると、2倍も3倍も費用がいると思うんです。だったら最初から建設許可を出さなければいい。計画があるから駄目だと。

支所長

市も都市計画道路というのをたくさん線を引いておりますけれど、それも順序だって必要な大きなところからしています。その間、今言いましたようにすぐにはできない。でも皆さん方の土地なんで、その間有効に利用したいというところで、その兼ね合いもかけて、軽易な建物であれば、建てて土地を利用していただいて結構です。ただし計画があることをご承知の上で、いざ事業着工の折には転居をお願いしますということです。

参加者Dさん

今月の広報紙を見させていただいたんですが、森先生の市民栄誉賞、子供たちの家庭生活、割と我々の生活と密着しているような話が載っているし、14ページには暮らしの情報で子育てのことが載っていますし、非常に今月は読みやすかったです。

誰かさっき言われましたけど、優秀な方は子供の時から優秀だと、私はゴマをするわけではないですけど、市長も非常に体格もよろしいし、我々男性と比較しても元気がいいので、力をもらって帰るんですけど、表彰された森先生の話を知ると、要するに文武両道、剣道をされ、非常に細かい生物の細胞に関わる人類の源を解明したとか、理数系の先生で非常にバランスが出来ていると思うんです。最近の岡山も、日本の全体も運動が足りないとか、詰め込みで勉強せい、勉強せいと、親も先生も言われますけど、実際にもうちょっと子供のことを考えて、倉敷市は田舎ですから、外へ出れば結構運動もできるから。

ちなみに市長さんは子供の頃に、何かスポーツをされていたんですか。愛読書はなんだったのですか。

市長

そう言えば、森先生の話をしようと思っていたんです。森先生は児島の本荘小学校、味野中学校、青陵高校、京都大学へ行かれ、そして留学をされて、今は京都大学の教授をさ

れています。アメリカのノーベル賞と言われるアルバートラスカー賞という賞を今年、取られました。この賞を取った方の何人かに一人はノーベル賞を取られるような、そういうすごい賞です。倉敷市としても表彰したんですけれど、内容は非常に難しいです。研究内容は、細胞のシグナル伝達経路の解明とそのストレス応答の発見。要は細胞がちょっと傷が付いたりして、不良になってきた時に、自分で復元する力があるらしいんですよ。その仕組みを解明をするような研究をされたということで受賞されました。森先生はきっとノーベル賞をもらえるんじゃないかと思っております。倉敷市民として、シグナル伝達経路の解明というのがちょっとくらいは分からないといけないかなと思って、講演会をお願いしまして、出身の味野中学校でやっていただきまして、児島地区の方を中心に500人くらいの方が聴きにきて下さいました。難しかったんですけど、先生なりに中学生にもわかるようにやってくださいまして、その時に先生が言われたんです。自分は怪盗ルパンとシャーロックホームズを読んでいましたと。それを読んで自分は何が面白かったかという、怪盗ルパンが面白いというんじゃないかと、謎解きをする、調べるのが好きだったんで、細胞の謎を調べるのに繋がっていたんじゃないかと思うということ言われていました。スポーツは森先生自身はサッカーとかバスケットボールとか洋式のは下手だったと、でも剣道はものすごく強いんです。確か6段、今京都大学で剣道も教えられているということで。

私も子供の頃、怪盗ルパンとシャーロックホームズを読んでいました。私も理系に行っていたら、もしかしたらこうなったかもしれませんけど。謎解きを考えるのが好きだったというのはあります。今の子どもたちに道は色々あると思うので、ゲームが全く悪いと言いませんけど、パッと答えが出るんじゃないかと、何でそうなるのかを考えたり、植物が育っていくのも生命の仕組みが目前でどんどん分かるとか、そういうのをやってもらいたいなと思っております。スポーツは、私は小学校の時は陸上部で、短距離でした。、県大会とかは行っていませんので、標準でございました。あとはバスケットボールとかバトミントンとかしていました。

参加者Eさん

玉島から来ました。倉敷街角コンシェルジュをしています。自分たちが生まれ育った倉敷の町というのは本当に多面的で数えきれない魅力に溢れている町だということを痛感していて、全国や世界に発信していきたいという思いで、観光客や外から来られた方にボランティアで案内をさせていただいております。ここ2年間は、ソチオリンピックを目指して頑張られた高橋大輔選手の応援を、地元男の花道応援団ということで、応援させていただきました。スポーツ特別功労章を新聞で拝見しまして、大変うれしく思っております。6日の日は楽しみに行かせていただこうと思っております。中には入れないですけども。

今日は三つほどご提案があります。彼には倉敷を伝えてもらうキーパーソンになってもらいたいという思いが私たちにはあります。倉敷も観光は主要な産業なので、できるだけ早い機会に、加計学園さん、ヘルスピアさんとか、美観地区の加計美術館だとかしかるべきところに、彼のメモリアルルームというか、高橋大輔の物語館・記念館のようなものを全国からファンの人たちが来たくてたまらなくなるような施設ができれば思っています。産・官・学・民の色々な方々の力で、市にお願いするだけでなく、建物を造るわけではなく、今ある施設の中に、彼が頑張っていた靴とか、獲得してくれたトロフィーとか、メダルとか、色々な足跡を展示してもらうような場所ができるといいなと思っています。

今度、岡山で2番目の通年リンクができるわけですけど、彼の背中を追いかけて若手の選手が頑張っているの、そのアリーナを「大輔高橋夢アリーナ」と名付けてもらって、夢を追いかけて実現した大輔君のように、倉敷の子どもたちが未来に向かって、夢を実現するということはこういうことだというアリーナが、連島・水島エリアのシンボルになればと思っています。

また、市長さんの任期中に、彼に観光大使とか、ウエルカムアンバサダーとか、記念日を過ごす町イメージパーソナリティとか、そういう任命も合わせてお考えいただけたら、大変うれしいなと思っています。

もう一つだけ、駅前のバリアフリースロープは取り去られることが決まってしまいました。彼はクロアチアの世界の試合に行ったときにも、おばあちゃんが横断歩道を渡り終えるまで、そばに寄り添ってついていてあげていたりして、やさしい方です。高橋大輔スロープではないけれど、倉敷の入り口、ここの町の福祉や、やさしさを大事にしたウエルカムな施設ですよということで、せめてエレベーターができて、しばらくの間、共用して、スロープが危ないのか、危なくないの見届けてから、撤去するならやむを得ないと、取り去ることがベストな選択ではないと思うので、その辺も合わせて考えてもらいたい。この町は大学も多く、病院も全国レベルの大きい病院がある、そういう町が地域力だと思っているので、この町のすばらしさを活かしていただきたいと思っています。

市長

高橋大輔選手の大使の件ですけれど、市としては今回、スポーツ大使も是非受けていただきたいと思っていたんです。今後のプロの仕事の関係もありまして、功労賞という感謝状みたいなものを受けるのはいいですけど大使となると、その仕事はどうなるか、そこだけ受けて自分が今住んでいる所、所属している大学を受けなかったらどうなるのかとか、色々あって相談の結果、今のところはもう少し先という感じになっていますので、まだお願いをしていません。勿論、機会がありましたら、スポーツだけでなく色々な面で頑張ってもらいたいと思っています。今、言われましたように加計学園、勿論まだプロとしては現役でいかれるでしょうから、すぐメモリアルルームみたいなものを作るのは難しいかもしれませんが、勿論、ゆくゆくは星野記念館ではないですけども、そういうようなものも加計学園さんが中心になってやってくれればよいなと思っています。ご本人の今後の動向が決まっていないので、何とも言えない状況です。なるべく地元のPRにもなってもらえるように、頑張りたいと思います。

参加者Fさん

子育て支援の件です。学童保育を6時半か、7時くらいまで延長してくださいとお願いしているんですけど、なかなか私のところではできないんです。フルタイムで働く女性にとって活躍の場が増えれば増えるほど、子育ての時間でどうしても子どもを預ける所がいる。親の背中を見て大きくなるというのもありますので、できるだけ親と一緒に生活するのが一番ですけれど。

それともう一点は私の町内で、物干し竿を2本で4万円で買った人がおるんです。そんな高いのをどうしたんだと言ったら、結局は2本で2千円なんですけれども、ここへ置くんと言ったら「切ってあげましょう」と。切ったら、切り賃が生じた。そういう時には

町内とかに相談してできるように、そういうシステムを早急に作ろうと思ってます。今後ないとは思いますが、そういうことがありました。

それから、災害時要支援カードというのがありますが、いざという時にあのカードは役に立つということですが、実際、災害の集中豪雨とかの時には消防に電話しても、警察に電話しても、全く力になってくれないと、どうにもならないと思います。正直に申し上げて、私も消防団に入っていましたから、至る所から電話が入ってきて、どうにもこうにもならない。地域で、町内会とか最少の単位で対応して、行政が来てくれるのを待つと、それが一番じゃないかと思います。

市長

学童保育はあまり遅くまでは難しいですけど、条件が整った所は少し延長できるようにとは思っております。全部が全部できるわけではありませんけれど延長していく方向に考えております。

それから、要支援のカードのことを言ってくださいましたけれど、市も警察も消防署も消防団も連絡があった時にそれぞれ駆けつけるようにはなるんですけども、ただ南海地震とかになった時には、全部の所にパッと全部行くのは実際の時には難しいと思います。本当に皆さんがそれぞれ逃げることで、この前の長野県での地震、本当に誰も重傷にならなくてというのも、どこに寝ていらっやってというのもわかって、出てきていないから声をかけてというのもされていまして、そういう隣近所のつながりというか、コミュニティとか町内会の方でお願いをしたいと思っております。勿論、消防局も消防団も警察も全力をあげていざという時にはやりますけれども、それぞれが自身でできるだけ、なるべく助け合って、若しくは早く逃げただけければ、助ける人がより少なくすめば、より早く助けられますから、そういう思いであります。頑張ります。よろしく申し上げます。

参加者 G さん

この連島地区で、市長の考えている地域力というのはどういう方向性を見られているんでしょうか。

市長

さっきから農業のことばかりになって恐縮なんですけれども、やっぱりこの倉敷かさや農協の中心地域でもありますので、私はレンコン、ゴボウ、また福田地区のショウガ、そういうもので、今日の農業まつりでもレンコンチップスとか、ゴボウチップスとか、連島バーガーも非常に人気がありましたけれども、そういう付加価値をもっと付けていくことが重要なことではないかと思えます。JAの女性部の皆さんも色々頑張ってくださいまして、お菓子とか開発して下さったりもしているんですけども、全国の消費者の人がその地域を見るときに、この連島で見るときには、まず何が取れますねと見るんですが、なんでそこでそれが取れるんですかと、特に外国の方とかはなんでそれがそこで取れるんですかと理由を、長い歴史があれば当然安全なわけです。どこかから輸入してきて、加工したものでなくて、元々の高梁川の東側の土壌がよくて、それが取れるということとかを合わせて発信して、かつ値段を高くするにはちょっと加工品を作っていくことが必要ではないかと思っております、そういうものを出したい、発信したいなと思っております。それと

連島は薄田泣菫さんの文化，芥川龍之介さん，田山花袋さんとかが相談してきたすごい人ですので，そういう部分も発信したいですし，それから勿論，大輔君それとサンフレッチェの青山 敏弘選手，同級生でびっくりしましたけれど，それから広島野村 祐輔投手もいますから，地元であるものを発信したいんです。

良い農産物が取れるので発信したいと思っているのと，後もう一つ，芸科大と地域のつながりを深まるようにできればと思っています。実は倉敷芸術科学大学は今年，文部科学省から認定されまして，もっと地域に貢献をしていきますというプログラムを来年度の全入学生の学生からいれるようにされましたので，もっとも地元の方と学生さんとのつながりを通じて，芸科大に来てくれた人が倉敷市に住んでくれて，新しい産業も起こしてくれたらなんとそんなところも考えています。

参加者 H さん

私は西浦小学校，連島中の出身です。治山治水ということで，治水については浚渫，汐入川ということですが，私は治山のほうを。私たちの所は山の南側麓で急斜面できつい。今年の2月初めに土砂災害防止法に基づいて，指定された所が回覧で回ってきました。私たちの浅浦という町内会はその左右，一部は入っているんですけども，がけ崩れの防止区域と，それから新田公民館から東のほうはこれも土砂崩れ。ところがちょうど私たちのところは指定されていない。地すべり，昔でいう山津波を絶えず恐れとるんです。それにつままして，今，岸本支所長がおられますけれど，岸本支所長が担当課におられた時に，うちの裏が崩れまして適切な対応をしてくださった。懐かしい方が今は水島の支所長で，大変お世話になって，うちの裏を直していただいた。その後段々と過疎，車が入りませんから，家が減りました。30軒あったのが，今，20軒ほどです。すると排水をする人がいない。すると地下水が，私らが子どもの時はきれいなのが流れておったんですが，沢ガニがおった，よう遊んだもんです。それが今はだいたい降らないと水が流れない。花崗岩の真砂土でできて広島安佐のように，深く静かに空洞が進んで私の裏なんかも擁壁がずれてきた，変化が表れておりまして，深く静かに沈んでいるのを土石流はありませんけど。そういう目に見えないところの災害の予知につままして，今回，水島支所の担当課は非常にご尽力くださいまして，市議さんや土木委員の方々がご尽力くださり，登記をして，「やってやる，すぐにはできんぞ。だけでもやる」という指示を土木委員さんを通じご連絡をいただきました。支所長さん，誠にありがとうございました。強力に進めていただければ，私たちも安心して，よろしく願います。

参加者 I さん

私は倉敷の婦人女性防火クラブで，家から火事を出さないように，地域を守ろうという活動をしています。先日，木・金と東京である防火防災協会主催の日本自主防災組織全国リーダー研修会というのに参加してまいりました。1道2府10県の県の単位の人と分科会で勉強をしました。その中から防災士の話がでました。私は防災士募集の広報紙と，昨年受けて防災士にならせていただいき取材を受けた号と，2冊持って行っていましたので，それをお見せしたら，皆さん順番に見て，「防災士を受けるのは随分お金がいるんじゃないですか」という質問がでたんです。他の県の方が，「そうですね。約8万はいりますね。でも自分は自分で出して研修を受けた」と，私は倉敷市の広報紙を見てくださいと言って，

説明したんです。倉敷市は市長が防災に力を入れて下さっているんで、防災士の資格を取る時は補助をしてくださって、8千円で受けることができます。そのお金も無駄にしたいくないので、分厚い本でしたけれども、眠たくなりそうでしたけど、頑張って読んで受けましたという話をしました。それと、住宅の耐震化診断についても申請すれば補助があるとか、小・中学校の耐震化も併せて行うようになっているお話もしました。「もうこの広報紙はないんですか」と、5冊ほど公民館でもらっていたので、それを読んでくださる方に持って帰っていただきましたら、電話がかかってきて、防災のそこだけでなく、最初から最後まで見たけど、すごい徹底していますねとお褒めの言葉をいただきました。他の県の方から、送ってくださいと。

そこで防災に力を入れてくださっているんで、もう一つ。小・中学校の子どもたちのために教室にヘルメットを常設しておけば、耐震化に備えていざという時に、頭を守ることができると思うんで、予算の関係上、追々にそういうことも考えていただければ、未来を持つ子どもたちの命が守れるんじゃないかと思います。

市長

広報紙を宣伝していただいて、ありがとうございます。色んな面で備蓄とか、さっきも言われました自転車を通っている子どもさんだけでも、ヘルメットが教室に配備されれば、いいのかなと思いますし、まだそこまではなっていないんですけど、また色々考える中で、検討させていただきたいと思います。ありがとうございます。

参加者Jさん

玉島からきました。子どもの頃には祝日に日章旗をあげて、お祝いというか、今日は祝日ですよとやっていた記憶があるんですが、最近はほとんどの家庭でしなくなりました。国旗・国歌をもっと大切にすることができないかと。そういうことを本気で言い出すと、右翼かと言われても嫌ですけど、日本を大切にすること、そこから始まるんじゃないかなと。アメリカとか外国に行くとき国歌、国旗に対し敬意を表しているのがほとんどです。日本人だけが国歌とか国旗に対し敬っていない、スポーツの時だけ国歌を歌うということではなく、普段から子どもの時から、学校教育の中で教育されていなかったのかなと、最近、自分が年をとるについて考える、若い時には考えていなかったんですけど。子どもの時から、日本の国はずばらしい、人と人とのつながりがある国だということを倉敷市として小学校と中学校の中で、教育されたいと思っています。それと、ここ連島にしても、私が住んでいる玉島にも非常に優秀な方がでられている、偉人がでている、そのことを地域の人知らないことが多く、玉島も熊田恰さんとか非常に有名な方がいらっしゃるんで、学校の中で少しでも時間をとることができて、地域を愛する、こんなすばらしい人の後に続こうと学校の中で、少しでも時間を取っていただければ、プログラムができたらと思います。

市長

ありがとうございます。大変大事なことだと思います。勿論、倉敷市も、日の丸とか、倉敷市の旗と一緒にあげていますが、それぞれのご家庭であげられる方は少なくなっていると思います。まず基本は地域を大事に思う、自分の地域を良く知り、国を大切に思うと

いうことじゃないかと思えます。

小学校の授業の中でも、社会の副読本で地域の偉人の人たちのことを書いた本がありまして、それを全部じゃないですけど地域ごとに、熊田恰さん、三島中州さん、若しくは薄田泣菫さんというのを勉強するようにしていますので、もっと子どもたちが幅広く、最初は自分の地域、市内の人、岡山県の偉人を勉強するようにできればと思っております。

国旗については、日本国は諸外国、特にアメリカと比べると、アメリカは国旗を必ず敬わなければならないという考え方がありまして、なぜなら日本は日本人でございますけれど、アメリカの場合はもともとのインディアンの人もいるし移民の人もいるし、スペインから来た人もいる、アフリカから来た人もいる、メキシコから来た人と、本当に色々な人種の人があります。ですので、アメリカの場合はアメリカ人なんだということをわからせるように毎日、教室にある国旗に向かって忠誠を誓うというか、歌を歌ったりと自然とそうなるように教育していると聞いたことがあります。日本の場合は沖縄とか、アイヌの方とかいらっしやる中でそんなに大きくバラバラに人種が違うということではないので、そこまでしていないのが現実だと聞いたことはあります。ただ我々は皆、日本人ですので、地域を大事に、国を大事にと思っております。

参加者 K さん

今日のテーマの地域力から若干はずれると思えますが、せっかくの機会ですので。私は民生委員を引き受けちょうど1年目になります。感じたことですが、9月に75歳以上の独居の方に敬老祝い品っていうのを送る、これは倉敷の社協からです。これが1月から半年間、1度でも入院すると対象外になるようです。1月から6月30日までの半年間に1度でも入院するとダメです。あげられない、対象からはずれるんです。私はこれはどうかかと、他の人の意見を聞いても、おかしいんじゃないかという方も多くて。社会福祉協議会のことですから、直接ではないですけど、ご指導をお願いできたらと思えます。それと年末の慰労給付金も同じ。入院すると対象からはずれるということになっています。

もう一つ、私たちは6月に社会福祉協議会の会費を集めたり、10月の赤い羽根共同募金、年末の歳末助け合い募金、私たちが直接ではなくて、それぞれ地域にいらっしやる社会福祉協力員という方が各戸を回って集めていらっしやるんですけど、これが地域によって、小さい集落ですと、9人とか10人とか、一番小さいのが4人で、1年間で当番制です。80歳過ぎた方が当番になる。その方が「私でできるんでしょうか」というんですけど、私が「次の方をお願いしてあげます」と言うと、その方は「地域の他の方に迷惑をかけるので、そんなことはできません」と泣かれたんです。是非、その社会福祉協力員に定年制が導入できないものかと。小さい集落単位ですから、お断りすると近所に迷惑をかけると、やらなければいけないと泣かれたということで私も弱った。この2点について、社会福祉協議会の方をご指導いただけたらと思っております。

市長

入院の話は知らなかったものですので、ちょっと調べてみたいと思えます。協力員さんの実情とかも、無理してやっていただいているのもあるかと思えますので、実情を調べてみたいと思えます。それでは時間も過ぎましたので、今日はありがとうございました。